第１章　都市農村交流の意義と農山漁村における観光の現状

１　都市農村交流の意義

近年、「ものの豊かさ」から「こころの豊かさ」へと、国民の価値観やライフスタイルが多様化し、都市住民や訪日外国人を中心に、農山漁村の風土に根ざした食や農林漁業体験のほか、美しい景観・田園空間に身を置くことで感じる清々しさや豊かさなどを求める機運が高まっています。

一方で、こうした多様な機能を有する農村においては、人口減少や高齢化が進行していることなどから、地域の活力低下が危惧されています。

このため、都市住民や外国人旅行者に対し、食や体験、交流などを通じて農村の魅力にふれる機会を提供し、農業・農村への理解を深めてもらうとともに、地域の活性化につなげていくことが重要となっています。

道内では、地域の多様な資源を活かした農畜産物の加工や販売、農家レストラン、ファームイン等のグリーン・ツーリズムの取り組みが各地で進められているほか、学校教育や社会教育における体験学習等の場として農村を活用する動きが広がってきており、修学旅行等のメニューとして農業体験を取り入れる学校も増えています。

農村ツーリズムは、グリーン・ツーリズムから更なるステップアップを図るため、農林漁業者のみならず多様な主体が参画して、自然や食、歴史・文化、生活体験など地域にある個性豊かな資源を観光素材として活かし、魅力あるコンテンツを開発することにより旅行者を農山漁村に呼び込み、地域ぐるみで所得向上を目指す滞在型観光であり、都市と農村の交流が盛んとなり交流・関係人口が増加することで、地域の活性化が期待されます。

また、子どもたちが親元を離れ、農村で体験交流活動を行うことは、農村に暮らす人々との交流をはじめ、自然・農業体験や農村文化に触れる機会となるばかりではなく、自らを律しつつ、周囲と協調することを通じて、思いやる心を育み、豊かな人間性や社会性等を身に付ける機会となります。

そして、受け入れる農村においても、子どもたちが、驚きと感動をもって自然や農業と向き合う姿や元気な笑い声、様々な体験に取り組む真剣な眼差し等が、地域の良さを再発見し、誇りを呼び起こすとともに、子どもたちとの交流を契機とした地域の再生や活性化につながったなどの効果が報告されています。

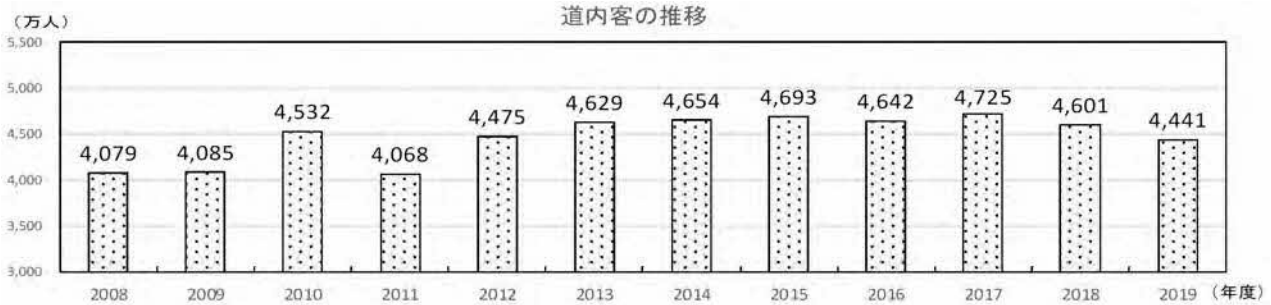
2　北海道観光の現状（観光入込客数の推移）

○　新型コロナウイルス感染症の影響により減少

北海道の観光入込客数（実人数）は、東日本大震災が起こった2011年３月以降、微増から横ばいで推移していますが、2019年度は新型コロナウイルス感染症の世界的な流行の影響により、前年度比4.4％減の5,277万人となりました。

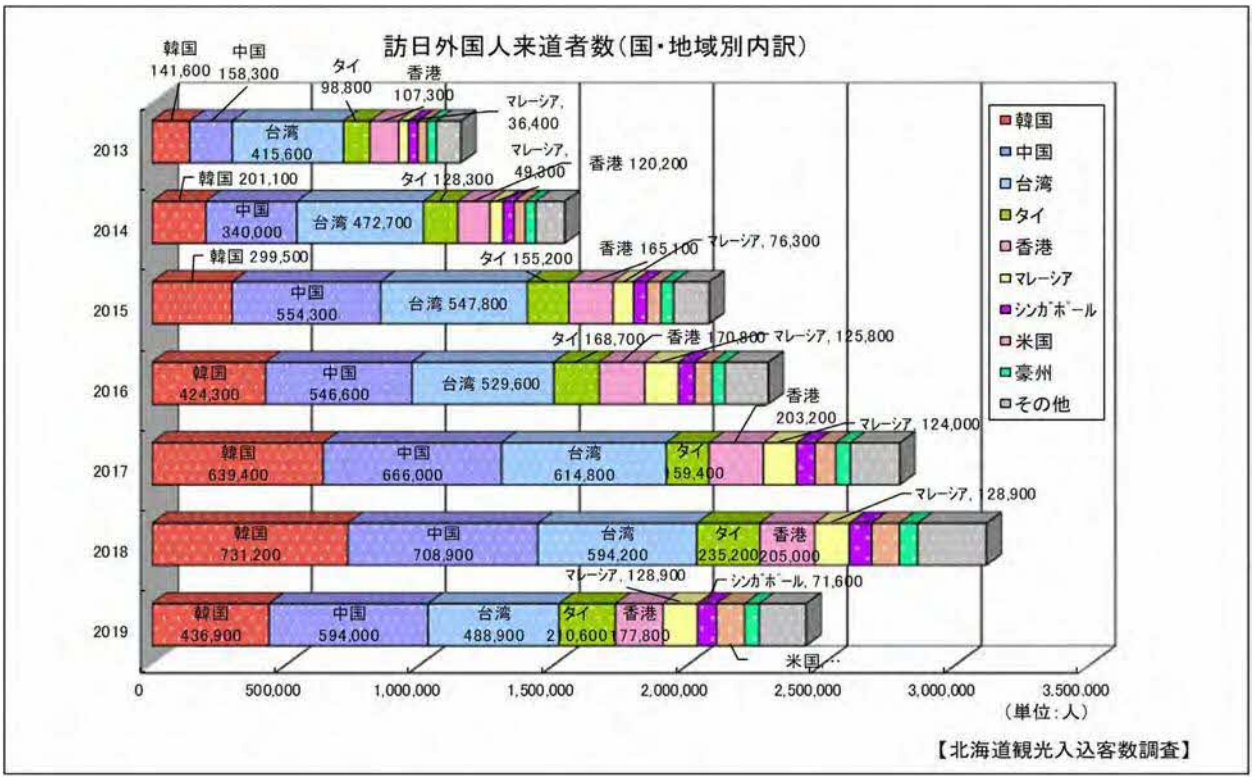
また、訪日外国人来道者数は、G20観光大臣会合の開催やラグビーワールドカップの開催効果などがあったものの、日韓における国際情勢の影響や新型コロナウイルス感染症の世界的な流行拡大に伴い、2019年度は244万人（前年度比21.6％減）となりました。

これは、日本全体の訪日外国人旅行者2,777万人の8.8％を占めています。



○　新型コロナウイルス感染症の影響により大きく減少

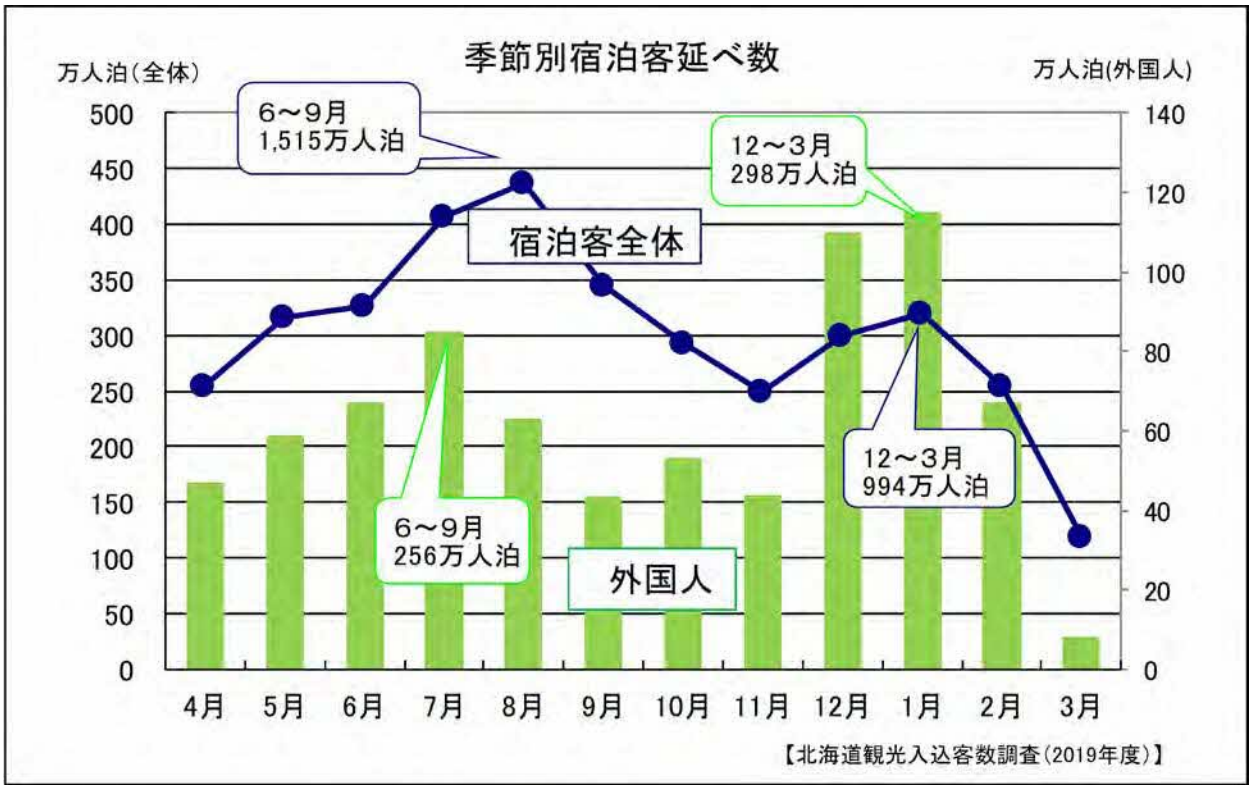
2019年度に本道を訪れた外国人観光客は、前年度に比べて21.6%減少し、244万人となっており、国・地域別に見ると、中国（59万4千人）が最も多く、次いで台湾（48万9千人）、韓国（43万7千人）の順となっています。



○　季節による観光客の動向

2019年度の観光客の延べ泊数（3,620万人泊）を季節別にみると、夏季（６～９月）が約４割、冬季（12～３月）は約３割となっています。

外国人観光客は、夏と冬の２つのピークがあります。

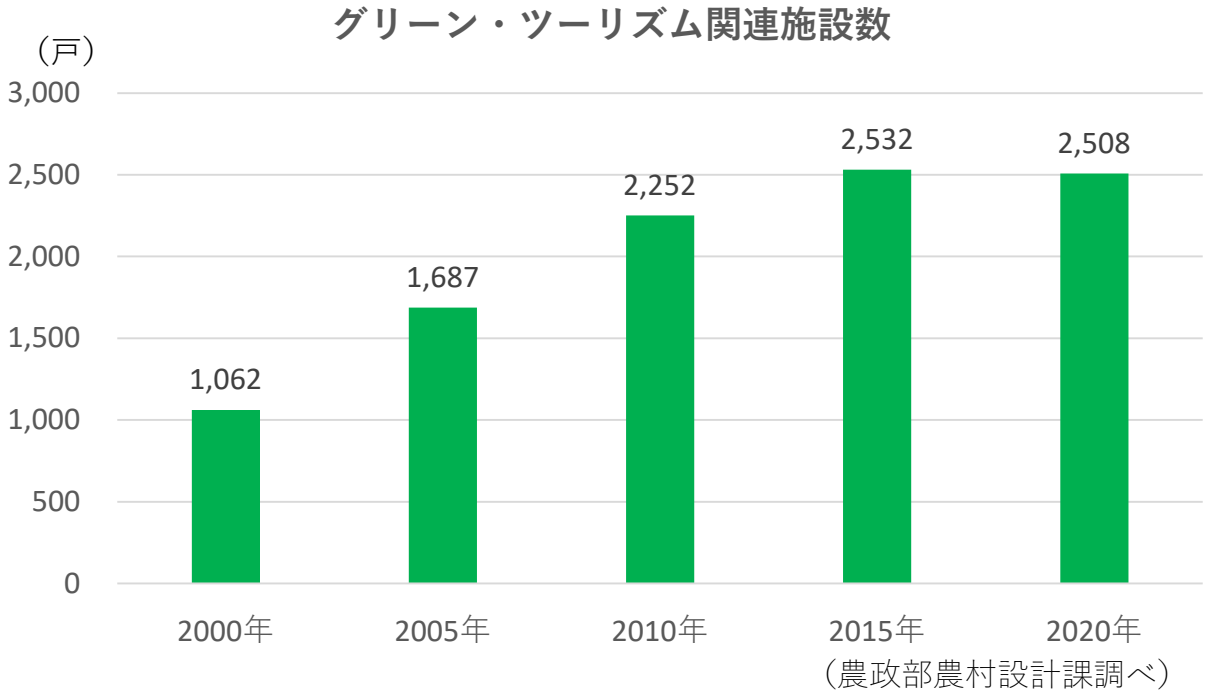


（「２　北海道観光の現状」：「北海道観光の現況2020」（北海道経済部観光局）より引用）

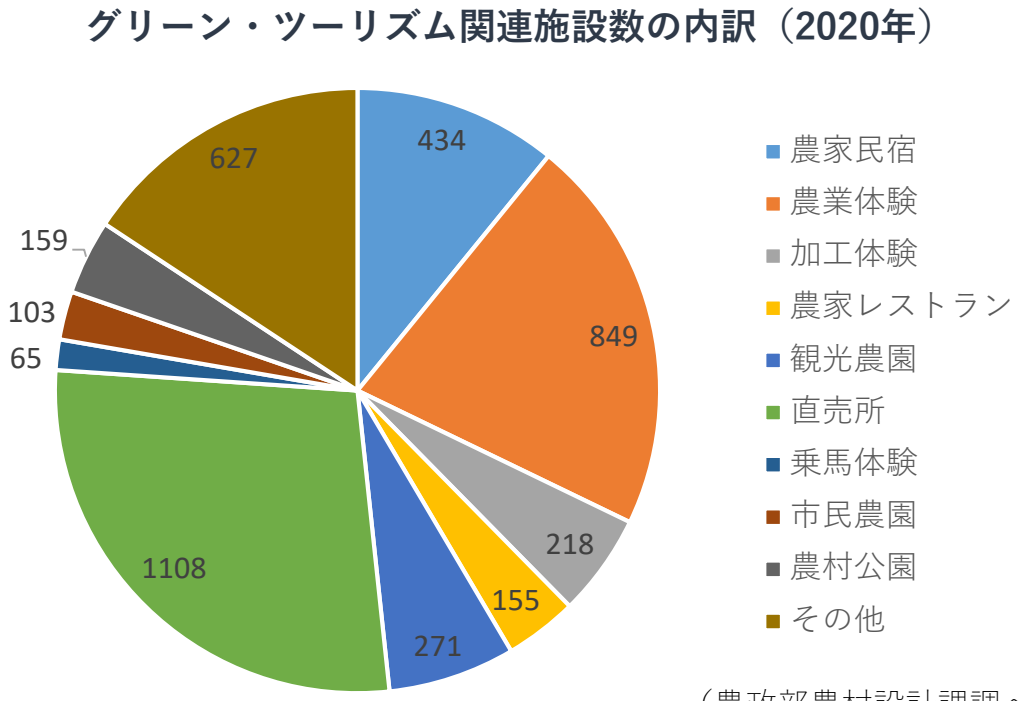
3　農村ツーリズム・農泊の推進状況

（1）農村ツーリズムの推進状況

道内の農村地域における観光客の受入施設は増加傾向にあり、特に「直売所」「農業体験」「農家民宿」が高い割合を占めています。



（農政部農村設計課調べ）

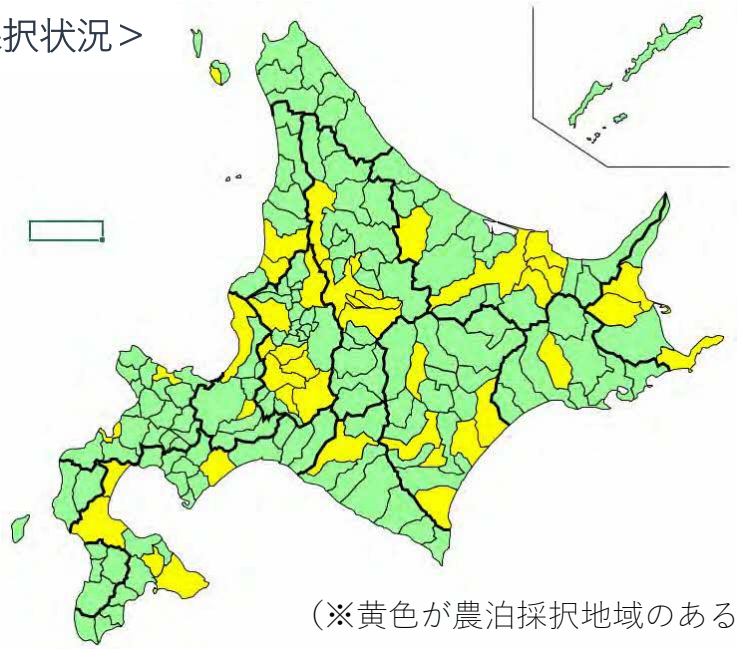


（農政部農村設計課調べ）

（2）農泊の推進状況

国は、農山漁村滞在型旅行「農泊」を持続的なビジネスとして実施できる地域を創出し、都市と農山漁村の交流やインバウンド需要の呼び込みを促進することで農山漁村の所得向上と地域の活性化を図るため、平成29年度より農山漁村振興交付金（農泊推進対策）事業を推進しており、道内では既に44地域（令和２年９月現在）が採択されています。

＜農泊推進対策の採択状況＞



（※黄色が農泊採択地域のある市町村）

北海道における農山漁村振興交付金（農泊推進対策：ソフト対策）の実施状況

（令和2年9月18日現在）

《平成29年度採択地域（1次・2次）》

振興局名	市町村名	事業実施主体名	取組種別
空知	三笠市	三笠地域における「農」と「食」の連携推進協議会	農
空知	月形町	北の里泊ネット	農
空知	栗山町	栗山町農泊推進協議会	農
後志	寿都町	北海道寿都町水産業産地協議会	水
胆振	白老町	ポロトの森エコミュージアム推進協議会	林
渡島	七飯町	七飯大沼農泊観光推進協議会	農
上川	東川町	ひがしかわ子ども農村体験交流推進協議会	農
上川	美瑛町	一般財団法人　丘のまちびえい活性化協会	農
宗谷	利尻町	利尻地区地域水産業再生委員会	水
十勝	鹿追町	鹿追町農泊推進協議会	農
十勝	帯広市	十勝域内「農・泊」観光連携協議会	農
釧路	鶴居村	ＮＰＯ法人　美しい村・鶴居村観光協会	農
根室	根室市	歯舞漁業協同組合	水
根室	中標津町	カモン！なかしべつインバウンド振興推進協議会	農

計14地域

《平成30年度採択地域（1次・2次）》

振興局名	市町村名	事業実施主体名	取組種別
石狩	北広島市	北広島市農泊交流協議会	農
石狩	石狩市	いしかり古民家活用地域活性化協議会	農
後志	余市町	余市町まちづくり協議会（仮称）	農
日高	平取町	平取町地域活性化協議会	農
渡島	八雲町	ＮＰＯ法人　やくも元気村	農
上川	比布町	世界一大雪山がきれいに見える町びっぷ農泊体験推進協議会	農
留萌	留萌市	ＮＰＯ法人　留萌観光協会	農
留萌	小平町	小平町農泊ビジネス推進協議会	農
オホーツク	滝上町	滝上町農泊観光地域づくり協議会	農
オホーツク	大空町	大空町地域雇用創出協議会	農＋水
オホーツク	網走市	オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会	農＋水
十勝	帯広市	帯広ファームトリップ推進協議会	農
十勝	更別村	更別グランファームツーリズム推進協議会	農
十勝	清水町	清水農泊観光促進協議会	林
根室	標津町	標津町地域協議会	農＋水

計15地域

《令和元年度採択地域（1次・2次）》

振興局名	市町村名	事業実施主体名	取組種別
空知	美唄市	びばい食農アートまちづくり推進協議会	農
空知	新十津川町	新十津川農泊推進協議会	農
空知	深川市	深川市農泊推進協議会	農
空知	夕張市	夕張ファームステイ推進協議会	農
渡島	八雲町	落部ブルーツーリズム推進協議会	水
渡島	長万部町	長万部町観光地域づくり協議会	農
上川	旭川市ほか	大雪農泊ビジネス協議会	農
上川	幌加内町	幌加内ファームステイ推進協議会	農
オホーツク	美幌町	美幌町観光まちづくり協議会	農
十勝	豊頃町	一般社団法人　ココロコ	農
十勝	広尾町	ピロロツーリズム推進協議会	農＋林＋水
渡島	函館市	（仮称）函館歴史建築活用協議会	水
オホーツク	北見市	北見市農泊推進協議会	農

計13地域

《令和2年度採択地域（1次）》

空知	岩見沢市	北村地域農泊推進協議会	農
上川	東神楽町	東神楽町農泊推進協議会	農

計2地域

道全体・・・44地域